

都市再生整備計画(第1回変更)

七飯町峠下地区

北海道 七飯町

平成28年12月19日

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>基本方針①: インフラ整備等による交通アクセスの利便性を活かした広域観光と道路情報発信の拠点となる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の新たな玄関口となる北海道新幹線新函館北斗駅(平成28年3月開業予定)の近傍で、大沼国定公園や異国情緒あふれる函館など、「魅力ある道南地域の広域観光及び交通情報提供を備えたゲートウェイ機能を持ち合わせた道の駅」を整備する。 また、豊富な自然環境と観光資源を有する本地域の特性を踏まえ、地域住民及び道内外の観光客に向けた知名度向上(情報発信)への寄与、更には、良質な雇用創出の確保や住民の地域活性化に対する意識改革等これらに繋がる好循環作用を生み出す環境を道の駅に付随する施策として整備する。 ・道の駅来場者が円滑な施設利用を図ることができるよう、国道に接続する町道の整備を行い、通行車両の安全に配慮した対策を行う。 ・道の駅の存在意義を高めるとともに、道内外からの観光客が計画地区に滞留することから歓迎色強めるためにも、明るく賑わいある環境づくりを目指し高質化していく必要がある。また、道の駅のシンボルマーク等をペナント化し、設置できる多機能型の街路灯に整備する。 ・当該地区が北海道新幹線北口として当町の情報発信拠点としての位置付けを担うエリアであることから、町内の情報PRはもとより、道南広域への発信地として案内サイン(情報板)を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■高次都市施設/観光交流施設(道の駅) ■道路事業/町道改良事業(道の駅接続道路整備) ■高質空間形成施設/街路灯整備 ■地域生活基盤/案内サイン整備(情報板)
<p>基本方針②: 交流人口増加に伴い地場産提供にかかる施設機能の充実化と当町の歴史・文化を融合した計画地区を中心とした賑わいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間活力を導入し、道南の素材を生かした食材の提供や菓子作り体験工房を設置し、北海道らしさをPRする。 また、近代農業(西洋農法)発祥の地としての起源を振り返ると共に、当町の歴史・文化を融合した、賑わいと魅力ある計画地区を創出し、町全体へと誘導化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■関連事業/テナントミックス施設整備事業、農産物直売所 ・道南食材を活用した直売所、レストラン及びミュージアム機能等
<p>その他</p> <p>事業期間終了後のまちづくりの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通アクセスの利便性を活かした地域のシンボリック施設となりうる道の駅等の設置により、交流人口の拡大が図れる。 ○人口減少が進む中、高齢者の方が住み慣れた地域で、世代間を超えた交流等により今後も安心して暮らせることができる。 また施設整備に伴い、各種イベント開催を通じて当町特産品及び観光施設としての知名度向上など、町の賑わいが持続され町全体が再び活気に満ち溢れたものになる。 	

